

東京女子医科大学

Tokyo
Women's
Medical
University





看護とは、手と心で
患者さんと触れ合うこと。

『至誠と愛の心で』

日本で27人目の女性医師・吉岡彌生。
1900(明治33)年、東京女子医科大学の前身である
東京女醫學校を創立した彌生が、
生涯座右の銘とし、患者に接する際に実践していた信念—至誠と愛。
「きわめて誠実であること」と「慈しむ心」は、
東京女子医科大学の教育・研究・臨床のすべての基盤となる理念です。
建学から1世紀以上の時を経た今も、ここで学ぶもの、
働くものは、この理念に従って活動しています。

創立者
吉岡 彌生 Yayoi Yoshioka

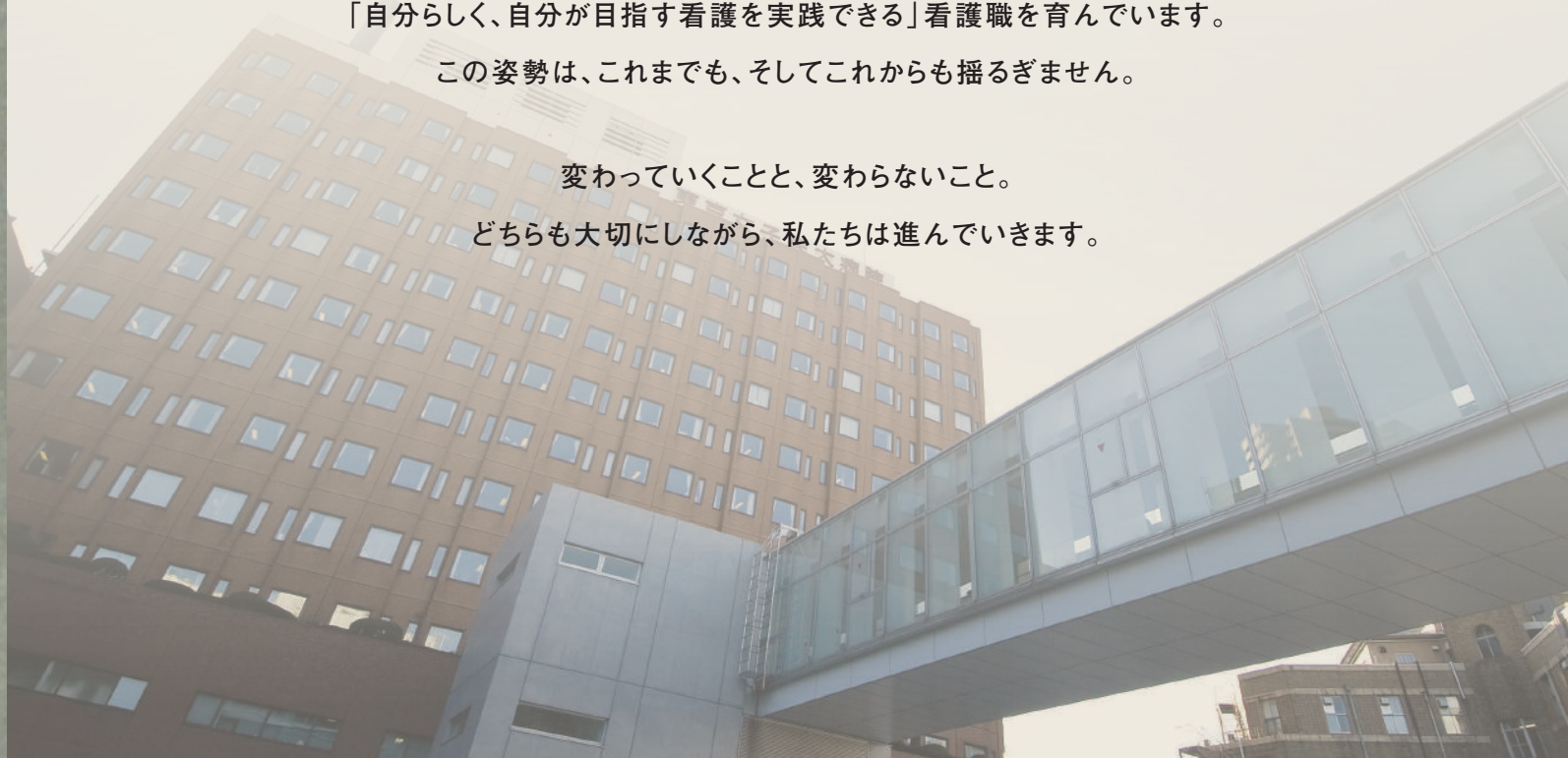
「変わっていくこと、そして変わらないこと」

私たちは、第三者委員会から指摘された問題点を真摯に受け止め、
新たな体制で「変わっていくこと」を決意しました。
透明で健全な法人運営体制の確立に向けて、教職員一丸となり、
患者さんをはじめとするステークホルダーの皆さまから信頼される
医療機関・教育機関へと再生を目指します。

一方で、「変わらないこと」もあります。
毎日、多くの患者さんが来院し、入院されています。
女子医大の看護職たちは、その一人ひとりに対し、「至誠と愛」の心をもって、
全力でケアを提供し続けています。

また、私たちは看護学生の皆さんを「日本の医療を担う看護職としての宝」だと思っています。
皆さんには、日本の医療の担い手として、
日本のどこかで生涯にわたって看護職を続けてほしいと願い、
「自分らしく、自分が目指す看護を实践できる」看護職を育てています。
この姿勢は、これまでも、そしてこれからも揺るぎません。

変わっていくことと、変わらないこと。
どちらも大切にしながら、私たちは進んでいきます。



東京女子医科大学関連病院

東京女子医科大学病院

明治33年の吉岡彌生による学校創立以来120年を超える歴史を持ち、「至誠と愛」を基本理念に日本の医療を牽引する役割を果たしています。



- 所在地 / 〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1
- 許可病床数 / 1,190床(一般:1,144床、精神:46床)
- 職員数 / 医師:691名、看護師:984名、その他:642名、合計:2,317名
- 診療科 / 血液内科、神経精神科、小児科、小児外科、整形外科、形成外科、皮膚科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線腫瘍科、画像診断・核医学科、麻酔科・ペインクリニック、歯科口腔外科、総合診療科、リハビリテーション科、病理診断科、化学療法・緩和ケア科、睡眠科、集中治療科、循環器内科、心血管外科、循環器小児科、消化器内科、消化器一般外科、消化器内視鏡科、脳神経内科、脳神経外科、腎臓内科、泌尿器科、腎臓小児科、血液浄化療法科、糖尿病・代謝内科、高血圧内科、内分泌内科、乳腺外科、内分泌外科、呼吸器内科、呼吸器外科、膠原病リウマチ内科、整形外科(リウマチ)、小児リウマチ科、ゲノム診療科、女性センター、黄斑疾患総合ケアユニット、前立腺腫瘍外来、女性骨盤底・排尿機能外来、炎症性腸疾患外来、母子総合医療センター(産科・母子センター、新生児科)、救命救急センター
- 機能 / 救急告示病院、臨床研修指定病院、臨床研修指定病院、災害拠点病院、エイズ治療拠点病院、神経難病医療拠点病院、移植認定施設(心臓・腎臓・肺臓・肝臓・骨髄・末梢血幹細胞)、公害医療機関、治験拠点医療機関、肝臓専門医療機関、総合周産期母子医療センター、東京都脳卒中急性期医療機関、東京DMAT指定病院、東京都難病診療連携拠点病院、肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関、東京都アレルギー疾患医療専門病院 など
- 看護体制 / 7対1看護、変則2交替勤務、モジュール型プライマリナーシング

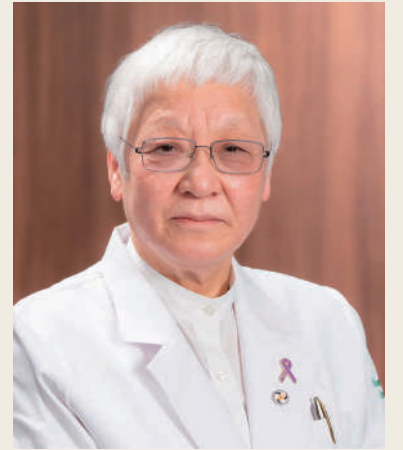


病院長メッセージ

「至誠と愛」を実践し、より良い病院を目指して。

肥塚 直美

東京女子医科大学の理念は「至誠と愛」、すなわち、「きわめて誠実であること、慈しむ心」です。当院では「至誠と愛」を実践し、安心と安全を最優先し、患者さんファーストで患者さんに優しい最善の医療を全職員が一丸となって行っています。当院は、約50の診療科があり、最新の内科治療のほか、手術件数は年間8,000件を超え、低侵襲手術やロボットを用いた手術件数も多く高度な医療を提供しています。また、本学では看護職が充実した仕事と生活を送ることができるよう、あらゆるプロジェクトで看護職をサポートする「看護職キャリア開発支援部門」が女性医療人キャリア形成センターのもとに設置されており、キャリアの支援体制が整っているのも本学の魅力の一つです。是非、皆様に我々のチームの一員になっていただき、皆様と一緒に、より良い病院を作りたいと思います。皆様をお待ちしています。



東京女子医科大学 附属足立医療センター

東京都北東部の基幹病院として開設されました。2022年1月に東京都荒川区から足立区に移転し真新しい病院となりました。地域密着型の大学病院です。



- 所在地 / 〒123-0872 東京都足立区江北4-33-1
- 許可病床数 / 450床
- 職員数 / 医師:228名、看護師:486名、その他:242名、合計:956名
- 診療科 / 内科、心療・精神科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、乳腺診療部、眼科、耳鼻咽喉科、救急医療科、麻酔科(ペインクリニック)、放射線科、歯科口腔外科、リハビリテーション科、血液浄化部、周産期新生児診療部・新生児科、骨盤底機能再建診療部
- 機能 / 地域医療支援病院、救急告示医療機関、救命救急センター、東京都指定三次救急医療機関、地域がん診療病院、東京都肝臓専門医療機関、東京都脳卒中急性期医療機関、臨床研修指定病院、臨床研修指定病院、地域災害拠点中核病院、地域周産期母子医療センター、東京DMAT指定病院、東京都難病医療協力病院、がんゲノム医療連携病院
- 看護体制 / 7対1看護、変則2交替勤務、チームナーシングとプライマリナーシング

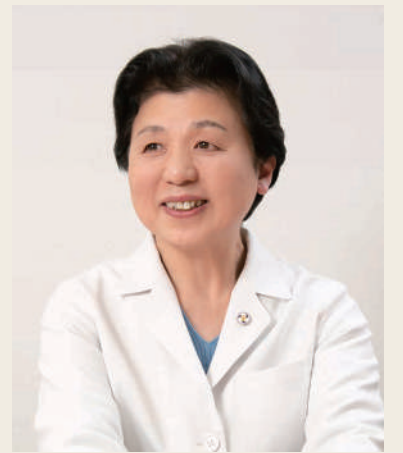


病院長メッセージ

附属足立医療センターで磨くスキルに膨らむ期待。

内潟 安子

卒後どこに就職しようかと、ワクワク感とドキドキの方も、もう1回新しい職場を探してみたいという方もおられるでしょう。私は、あなたの能力を最大限に伸ばしてくれる病院をお勧めします。誰も自分の能力をよく知りません。しかし、あなたに素晴らしいナースパワーがあることは、あなたの上司になる者は見抜くことができます。足立医療センターは、そんな上司に出会える病院です。大学病院機能と地域に密着した機能の両面をもつ機動力あふれた足立医療センターは2022年1月に新しい機器完備の真新しい病院になりました。皆さんを待っています。



東京女子医科大学 附属八千代医療センター

千葉県唯一の小児救急センターや、総合周産期母子医療センター、救命救急センター、SCU、がんセンターなどを備え、出生～高齢者まで幅広くケアを行います。地域と密接な連携により、地域完結型医療を目指します。



- 所在地 / 〒276-8524 千葉県八千代市大和田新田477番96
- 許可病床数 / 500床
- 職員数 / 医師:114名、看護師:449名、その他:414名、合計:977名
- 診療科 / 血液内科、糖尿病・内分泌代謝内科、呼吸器内科、腎臓内科、循環器内科、消化器内科、脳神経内科、リウマチ・膠原病内科、消化器外科、乳腺・内分泌外科(女性科外来)、呼吸器外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、眼科、小児眼科、耳鼻咽喉科・小児耳鼻咽喉科、泌尿器科、歯科口腔外科、皮膚科、小児科、神経小児科、小児集中治療科、小児外科、小児救急科、新生児科、母体胎児科、婦人科、麻酔科・産科麻酔科・小児麻酔科、救急科、放射線科(画像診断・IVR科)、内視鏡科、化学療法科、病理診断科、神経精神科・心身医療科、集中治療科、リハビリテーション科、緩和ケア内科
- 機能 / 救命救急センター、小児救命救急センター、DMAT指定医療機関、臨床研修指定病院、地域災害拠点病院(地域災害医療センター)、地域医療支援病院、千葉県小児医療連携拠点病院、総合周産期母子医療センター、千葉県がん診療連携協力病院、肝疾患専門医療機関、日本臓器移植ネットワーク腎臓移植施設
- 看護体制 / 7対1看護、変則2交替勤務、固定チームナーシング



病院長メッセージ

一人ひとりの個性を大切に、エキスパートを育成。

新井田 達雄

八千代市の要望を受け2006年12月に開院して以来、心温まる医療と急性期・高度先進医療との調和を目指し、地域の中核病院として診療所や病院との連携を推進してきました。今後ますます増える虚血性心疾患、脳血管障害、悪性新生物、糖尿病や精神疾患などの高度急性期成人医療から小児周産期医療までもカバーする千葉県の拠点病院としての役割も担っていきます。大学病院・高度急性期病院であっても、一人ひとりの個性を大切にしながら、皆さんが看護職としての第一歩をしっかりと踏み出し、エキスパートとしての長いキャリアで研鑽を積めるよう、教育体制と職場環境を整え、皆さんをお待ちしています。



東京女子医科大学が目指す看護とは。

「至誠と愛」の精神のもとに、高度・先進医療を提供する医療機関にふさわしい人間性と能力を身につけ、患者さんに満足される看護を提供する。

方針

1. 患者さんに安全、安心、安楽な看護を提供する。
2. 高度・先進医療を受ける患者さんにふさわしい看護を提供する。
3. 温かく心から頼れる看護師になるために日々研鑽につとめる。
4. 他部門と協働して目的を達成する。

看護部からのメッセージ

ご挨拶

一人ひとりの個性を大切に、強みを見つけてともに学び合い成長していきましょう。



附属足立医療センター
看護部長 木所 篤子

東京女子医科大学病院
看護部長 近藤 芳子

附属八千代医療センター
看護部長 川崎 敬子

東京女子医科大学の理念は「至誠と愛」。それは、どんな時も誠実に、人を慈しむ心を忘れず、全ての患者さんに対して、親や兄弟姉妹、友人など自分の大切な人だったら、こうしてあげたいと思う看護を実践することではないでしょうか。医療がどんなに高度化・複雑化しても、人の手と心に勝るケアはありません。本学では、医療のどんなステージにおいても、患者さんの個性を重視し、尊厳を守りながら、安全で安心できる医療・看護を提供していきたいと考えています。患者さんは、多様な背景を持つ一人の生活者です。病気を治療することのみに着目せず、生活者としての暮らしを継続できるようにすることが、私たちの使命でもあります。それを実現するには、看護職であると同時に一人の人として、様々な経験を積み重ね、豊かな人間性を身につけ、人として成長していくことが大切だと思います。私たちは「みんなが違ってみんないい」という姿勢を大切にしています。看護職一人ひとりにも個性があり、歩んできた過程も、なりたいた看護師像も違うでしょう。患者さんの命と暮らしを守るという、目指すところは同じでも、そこに到達する道のりはそれぞれだと思います。どんな進み方でも、こういう看護がしたいという思いを実現できるようサポートしていきます。一緒に学び合い歩んでいきましょう。

ここでしかできない経験と学びがあります。

本学では、日本看護協会のラダーに基づいて、看護職員一人ひとりの段階を確認しています。基準に沿った評価により、自身のキャリアラダーを客観的に確認することができます。女子医大独自の取り組みとして、年度末に事例レポートを用いて師長とナラティブに自分自身の看護を深く掘り下げています。評価だけでなく、自身の強みや成長の歩みを確認し、次年度の目標に繋がります。今と将来と一緒にみながら、キャリアを育てていくのが女子医大です。

人間力を育みながら、全人的ヒューマンケアの担い手を育てます。

全人的ヒューマンケアを実践していく、それが私たちの目指す看護です。患者さんを身体面のみならず、精神面、社会面、スピリチュアルな面を含め、生活者として、全人的に捉えていくことが欠かせません。

看護力は、知識技術だけでなく、人としての力がとても大切です。

多様性の高い風土で、お互いの価値観に触れ、人間力を高めながら、看護職として、人として、成長できるのが女子医大です。

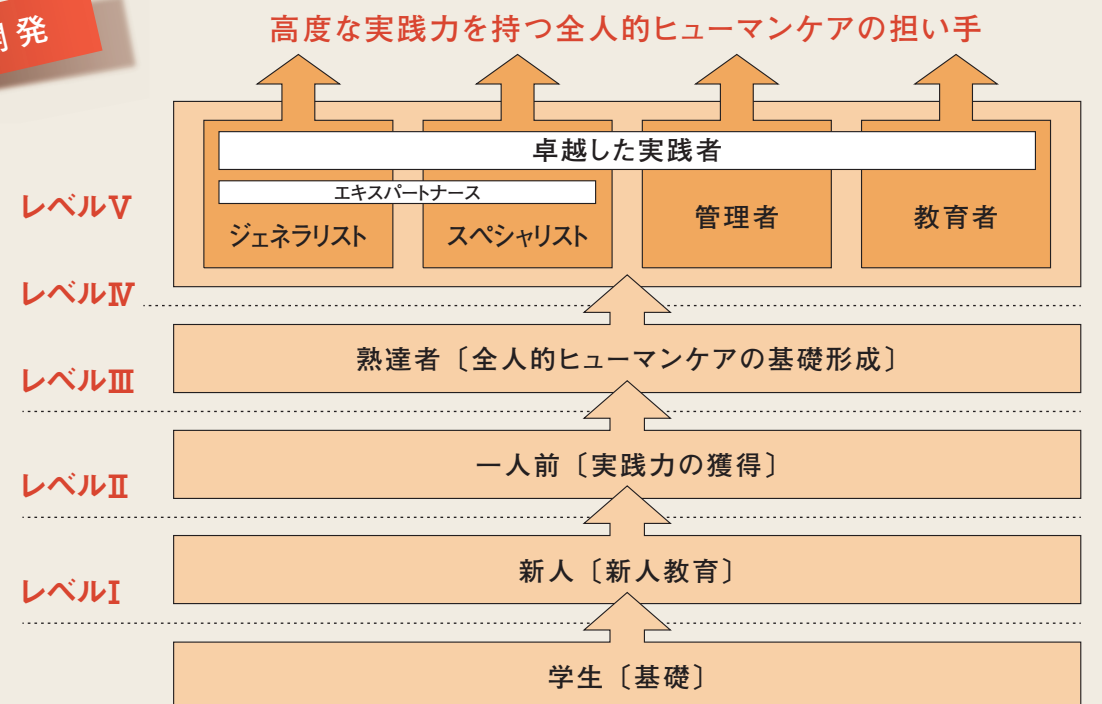


キャリア開発

キャリアラダー×ナラティブによる評価



1年ごとに自分自身の段階を確認しながら成長



キャリア開発展期

10年

キャリア基礎形成期

ナラティブとは？

東京女子医科大学では、キャリアラダーとナラティブの組み合わせによる実践力の確認を年度末に行っています。ナラティブとは、看護の実践を語る行為のことです。実践者が看護の実践を言葉にして語ることで、面談者はその思考、意図を見出します。面談者は気づいたことを更に問いつけ実践者は強みを知ります。そういった語りを通して個々の強みを知り、認識し、看護職としての実践力を高めながら全人的ヒューマンケアの担い手を目指します。

基礎から専門へ、自分らしく学べる選択制。 女子医大ならではの自慢のカリキュラム。

教育カリキュラムには定評がある女子医大。ラダーレベルに沿った研修で、自分に合った成長ができます。女子医大だからこそ持つ資源を活用し、現場での実践に活かせるよう、院内研修・現場での学び・看護専門領域スキルアップ研修は「つながる/つなげる」プログラムになっています。個人の目標に合わせて選べる、多彩なメニューが自慢です。

継続教育

キャリアラダーに則って目標を設定し、それを達成するための役割・看護技術研修などを設けています。レベル別のさまざまな研修を通して、無理なく自己成長ができます。

現場の看護を振り返り、やりたい看護を明確化する気づきの場

現場から離れて看護職に必要な知識・技術・態度を学び合います。講義を聴くだけの研修ではなく、現場での実践と結びつけながら学び、研修後に現場で活かすことを何よりも大切にしています。キャリアラダーに基づいて、自身の関心に沿って学べます。様々な部署から集まり、いつもとは違った考え方に触れることもできます。振り返り、語り合うことで、明日からの実践に活かすヒントが沢山見つかります。

〈院内教育研修〉

- 看護基礎研修 ●看護倫理
- 看護研究 ●問題解決
- リーダーシップ ●キャリアセミナー 等

各病院の
院内教育研修の
詳細はコチラから



支援者と共に、看護実践を積み重ね、育み合う

私たち看護職は、目の前の患者さんや家族、医療従事者との関わりを通じて、日々たくさんの経験をしています。女子医大では、すべての部署に教育担当者を配置していることはもちろん、スタッフ全員がともに学び合うという意識を持ち、よりよい看護を提供するための話し合いや日々の看護の振り返りを行っています。一人ひとりの成長に寄り添い、看護への気づき・学びを得られる手厚い支援が女子医大の現場での教育の魅力です。



現場でのかけがえのない経験を、
あなたの成長につなげる機会をつくりたい!

河合 麻衣子 (東京女子医科大学病院 看護部) 教育担当

私たちが研修を企画するうえで大切にしていることは、「現場での経験」とつなげること。女子医大には、「【現場での経験】と【経験についての振り返り】を繰り返すことで成長できる仕組み」があり、「すべての部署に、研修について相談できる先輩」がいます。「わたしが学校で学んだことは、そういうことだったのか〜!」という腑に落ちる学びは、「明日から、現場でもやってみよう!」という自分の内側から湧き出る気持ちにつながります。女子医大には、経験年数や立場に関わらず、お互いの経験や問いかけから学び合える仲間がいます。部署の先輩や、私たち研修担当者も、あなたと共に学ぶ仲間です。一緒に看護を語り、一緒に考えていきましょう!

仲間との交流で
看護が広がる・深まる

院内 教育研修

「もっと知りたい」を
スペシャリストと共に学ぶ

看護 専門領域 スキルアップ 研修

興味に合わせて選べる、領域に特化した専門性を高める研修

各施設に在籍するさまざまな専門領域のエキスパートナースや専門看護師、認定看護師が企画運営しています。看護スペシャリストによる洗練された研修は、高度医療を担う本学の看護職に必要な専門性の高い研修で、継続して学び続ける必要がある充実した内容のものばかりです。看護職が高度医療を担う現場で自信をもって活躍できるよう、スキルアップできる場を整えていきたいと運営側も日々取り組んでいます。

〈スキルアップ研修〉

- がん看護～多職種で考えるがんの症状マネジメント
- 災害看護～入門編・基礎編・応用編
- 呼吸ケア看護～人工呼吸器装着患者の看護
- 新生児看護～新生児蘇生法 スキルアップコース
- 入退院支援看護～看護師主導の入退院支援

患者に合わせた心不全指導と心不全緩和ケア
看護専門領域スキルアップ研修は
年間10領域29回開催
(オンラインやYouTubeでも開催しています)



3施設合同研修(助産師、NICU/GCU、小児、救命、手術室領域で開催)

助産師としての成長をサポート。

3施設合同助産師研修では、入職3年目を対象にローリスクからハイリスクまでケアできる助産師育成、助産師のモチベーション維持を目的とした研修を行っています。ハイリスク疾患合併妊婦の看護、産科救急時の対応、ケアリングなどの勉強会を行い、3施設の特徴も知ることができます。施設間の異動も可能なので、自分に合った施設での経験を通して、キャリアパスを描くことができます。他にもNICU/GCU、小児、救命、手術室領域でも合同研修を開催しています。



合同研修で身につけた知識や技術を現場で活かしています。

周産期母子医療センターの助産師として、必要な知識やコミュニケーション技術を身につけ、スキルアップできるような研修があり、日々の助産ケアに活かすことができている。また、助産師同士の交流では、日々の体験を共有することで、頑張る力につながっています。今後もさまざまな妊産婦さんの想いに寄り添える助産師として、自分自身の知識、技術、人間性を向上させていきたいです。



助産師
中島 左絵 (附属足立医療センター) 産科勤務

語りから看護を振り返り
「また明日から頑張ろう!」と思える学びの場です。

看護師 田中 優子 (附属八千代医療センター) 循環器病棟勤務

日常での学びは盛り沢山で、普段はなかなか落ち着いて振り返る余裕がもてません。院内研修に参加すると頭の中や心を整理して看護を考える機会になり、無意識に行っている看護をリフレクションすることによって「自分の良さってそこなんだ!」と私の強みや大事にしている看護に気づかせてもらえます。自分を振り返り語ることで内省が深まり、そこに他者の価値観も組み合わせると、更に看護が広がります。「また明日から頑張ろう!」そう思える学びの場です。



マンツーマンのプリセプターシップと 集合教育の両輪で、着実に成長できる1年間。

気さくで温かい、笑顔が多い職場 — これが女子医大のカラー。

入職後3か月間は担当プリセプターが行動をともにし、日常の業務に必要なスキルをマンツーマン指導。プリセプターはもっとも身近な先輩として、心身面で支えとなってくれる存在です。悩みや喜びを共感し合いながら、チームの一員として成長していける環境です。

新人看護師の1年間

女子医大では、新人を支えるのではなく、協働をしています。

「共に学び、共に考え、共に成長」しながら、全人的ヒューマンケアの担い手として基礎を学びます。

3か月間はプリセプターや熟達者と行動しながらチームの一員として看護をします。

不安なこと・聞きたいことを相談しやすい環境づくりをしています。

新人教育



先輩看護師

鈴木 菜美子 (東京女子医科大学病院)
脳神経内科・外科病棟

新人看護師

中田 瀬菜 (東京女子医科大学病院)
脳神経内科・外科病棟

主任

春原 由佳 (東京女子医科大学病院)
脳神経内科・外科病棟 主任

新人看護師に聞く Q&A

Q. 病棟はどのような雰囲気ですか？

A. 雰囲気が良すぎて「こんな病棟あるの?」と思うくらい先輩達が優しいです。わからないことには快く応えてくださるので、とても聞きやすい雰囲気です。特に働きやすいと感じるのは、お休みも配慮してくれることです。今年はお盆休みも設けてくれたので帰省することができました。また将来の進学についても主任が理解してくださり、プリセプターには最近進学をした方を担当してくれました。自分のキャリアを理解し、受け入れてくださっているとも感じています。

Q. 3か月ルール(残業なし・課題なし)はあって良かったですか？

A. 残業なしのルールはとても難しかったです。都外から入職したので、東京の環境に慣れていない中での新生活で、もし最初から残業があったらだいぶ疲労がたまり、ここまで続けてこれたかなと思います。主任が残業をしないように配慮をしてくれていました。また、課題もなかったですが、患者さんについて病態や観察点を予習したり、先輩が説明していたことを調べたり、主体的に勉強していました。すると学んだことが繋がる瞬間が分かるので、今は勉強も楽しいです。

Q. プリセプターシップで教育を受けてどう感じましたか？

A. 2名で1名の新人を支援する体制で、熟達した先輩は、清潔ケアをする時も「この患者さんにはこうした方が合っているよ」とか「これを使った方が効率的だよ」等熟達者ならではの関わりや技を学ぶことができ「安心感がない」と感じるほどの存在でした。また2年目の先輩からは、できないことが多くて悩んでいる時に、「あと1~2か月すると1人でできることが多くなるよ。私達もそうだったから」と言ってもらえ、これからは頑張ろうと思える心の支えになる存在です。

1か月間の熟達者へのシャドウイング

1年目看護職員が熟達者と共に行動し協働して看護実践をします。熟達者と協働することで論理的な看護実践や患者さんとの関わりを教わったり、感じたりできます。同時に、安心してチームの一員として参画することで病棟の看護の特徴を掴めます。「自分も仲間の一人なんだ」と徐々に実感できる1か月間です。



入職後1か月間

入職後3か月間
(プリセプターシップ)

入職後4か月〜
チームでの支援

3か月ルール



入職3ヶ月間は看護職員として、社会人として、まずは環境に慣れるために生活を確立するための大切な期間として残業なし・課題なしで過ごします。自分自身が健康であることが、患者を安全にケアできることに繋がります。まずは看護観を育むために、看護する喜びを感じるための期間です。

新人看護職員研修



年に3-4回研修があり、1年を通して看護観や社会人・職業人としての姿勢を考え、同期と共に学び合える研修です。身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面で患者さんを全人的に捉え、グループメンバーとの共有で視野が広がり、深まります。学びを看護実践にどのように活かすかまでを研修で考え、明日からの看護実践に繋がります。

毎回お互いの成長を振り返る時間を設けており、自身の強みや成長を実感でき、自信や看護観の気づきに繋がっています。

「ここにいていいんだ」そう感じてもらえるように、相互支援を。

「クリニカルコーチだから教える」「新人看護職だから教わる」一見そう考えがちですが、私はそこに違和感がありました。なぜなら、経験年数関係なく同志だと思っているからです。たとえば、新人看護職が患者目録の情報収集をし、純粹に寄り添った看護をしようと一生懸命考えていることがわかると、私は初心に戻ります。またその意見を小チームカンファレンスの時にチームで共有し、看護に活かすようにすると相互支援になります。師長・主任と協働し、個々がやりたい看護ができるように安心感をもって、「ここに居場所がある」そう感じて貰えるように関わりながら共に成長していきたいと思っています。

クリニカルコーチ

河崎 恵
(東京女子医科大学病院)
CCU 勤務

全体をサポートする クリニカルコーチ

クリニカルコーチの役割

熟練した看護実践力と自己研鑽を重ね順調にキャリア形成している看護師を「クリニカルコーチ」として育成しています。現在51名のクリニカルコーチが新人教育をはじめ、看護職全体へのキャリア発展に必要な支援を主任、師長と協力しています。

看護のエキスパートとしての誇りを胸に、 院内院外で活躍する先輩たち。

キャリアを重ねる中で、自らの専門分野における知識・技術を追求し、指導や研究に取り組んでいく人に対し、日本看護協会による「専門看護師」「認定看護師」に加え、女子医大独自のシステムとして「エキスパートナース」を設けています。それぞれの道を選び、自分らしく輝いている先輩をご紹介します。

認定看護管理者・専門看護師・認定看護師・
エキスパートナース・診療看護師(NP)・
特定行為研修修了の人数と領域

3病院有資格者合計
133名
(2023年10月現在)

詳しくは
こちらから



エキスパートナース

榎原 亮 (東京女子医科大学病院)
循環器外科病棟勤務
補助人工心臓看護エキスパートナース / 人工心臓管理技術認定士

自分の専門性を高め、
辛い思いをする患者さんや家族が
日常に帰り、安全に生活ができるよう支援したい。

今まで重症心不全は長い入院生活を強いられてきましたが、補助人工心臓(以下VAD)によって家に帰ることを実現できます。患者さんや家族の計り知れない苦しさ・辛さを受け止めて力になりたいと感じ、この道に進みました。人工心臓管理技術認定士の資格取得後、もっと部署を超えて活動したいと先輩に相談。エキスパートナース試験に令和1年に合格しました。VADを入れた患者さんは長期間自己管理が必要になります。その人の傾向を予測して個別性ある在宅指導をすることで、安全により質の高い自宅での生活できようサポートをしたいです。「好きだからこそ専門性が高くなる」昔一緒に働いていた医師のことばです。自分の分野で認められ活動ができるエキスパートナース制度を利用して、今後も使命と責任を果たしていきたいと感じています。

患者さんが「自分らしく」過ごせるように
「どうしたいか」を一緒に考えるよう心掛けています。

外来化学療法室配属から2年が経過する頃、胃癌術後で2次治療に移行する患者さんから「こんなに治療を頑張ってきたのに、もう死にたい」と言われ、何もできずにいた自分を今でも覚えています。治療に関する知識を深めて患者さんの声に向き合いたいと思い、育児が落ち着いてから進学休職制度を利用し資格を取りました。認定看護師になり、患者さんが「自分らしく」過ごせるように、患者さんとの対話を心掛け、治療に必要なケアを共に考えたり、薬剤の副作用やその出現時期を予測した上でのセルフケア支援等を大切にしています。現在は化学療法看護の質向上に向けて、薬剤師との協働や勉強会の開催、統一した記録や管理上の困りなどの解決に携わっています。今後は地域のニーズにも対応しながら、がん治療に関する活動にも参加していきたいです。



認定看護師

小湊 篤子 (附属足立医療センター)
外来化学療法室勤務
がん化学療法看護認定看護師



診療看護師

清水 新 (東京女子医科大学病院)
消化器外科勤務
診療看護師

多職種それぞれが役割を全うし、
患者が満足感を持って帰れるようにしたい。

「こんな症状があるけど、どうしようもないよね」と患者さんに言われたことがありました。看護師5年目、看護技術だけでは対処が難しい問題に直面していた頃、かつての師長からNPの話聞き、まさにこれだと大学院に進学。今は回診、情報共有、処置(特定行為)、手術という一日が主です。中でも患者の診療方針を多職種と共有することは重要で、状況を把握し、疑問点は即座に話し合い対応するよう努めています。当院の消化器外科は手術件数が多く、肝臓・胆嚢・膵臓といった重症度の高い手術を行っているのが特徴で、術後も安定した回復過程をふめることは強みだと思います。患者さんが満足感を持って帰れるように、不安や疑問を解消し、納得して医療を受けられるよう尽力していきます。

患者さんのために
全職種が同じ目線に立てるチームを作りたい。

経験の中で、患者の悪化の前兆に気づきながらも他職種とうまく連携できず悔しい思いをした経験があります。部署の医療の質を上げるにはどうしたらいいかと考え、進学しました。臨床では患者の状態を捉えるための知識と多くの情報を整理し、更に言語化してチームで共有することが重要です。大切にしているのは、超急性期の全身管理をしながらも、患者は話すことが難しい状況下で「その人らしさ」を尊重すること。家族を通して患者を知り、みんなが安心できる療養環境づくりをしています。現在倫理的な課題、特に意思決定支援について意見を出し合う「倫理プロジェクト」を急性・重症看護専門看護師のチームで行っています。部署の医療・看護の質を高め、院内に波及することが目標です。



専門看護師

矢口 和 (東京女子医科大学病院)
ICU 勤務
急性・重症看護専門看護師



認定看護師

田中 景子 (附属八千代医療センター)
外来勤務
糖尿病看護認定看護師

「患者さんを生活者としてみる」
制限を強いられる患者さんが
どうしていきたいか近くで一緒に考えたい。

前職で糖尿病療養指導士の資格を取得後、もっと自分の看護の根拠を持ちたいと感じ、認定看護師の資格を取得しました。八千代医療センターに入職してから、まずは当院の使命と役割を知るべきと思い病棟勤務を希望。1年経過したところで師長から何がやりたいか問われ、「糖尿病看護外来」と答え今に至ります。糖尿病支援外来やフィットケア外来、糖尿病教室、多職種連携での調整なども行っています。外来で患者さんと関わる時に大切にしていることは、相手をニュートラルにみることに。糖尿病患者である前に、ひとりの生活者として、どんな生活を送り、何に困っているか時間をかけて聞き取ります。ひとりひとりの患者さんが自己管理できるようサポートをしたいし、それができる環境・風土に感謝しています。糖尿病看護は本当に楽しい!後輩育成にも注力し、育てていくのも今後の目標です。

自分らしさを活かしてさまざまなチャレンジを。 女子医大は、個々の活動を応援・サポートしています。

女子医大では全国各地から入職者を迎えます。毎年数十名が帰郷のため退職しています。進学、結婚、出産、夫の転勤など、事情はそれぞれ違っても、やめた人が生涯どこかで看護職として働き続け、キャリアを重ねていくことが私たちの願い。女子医大ではさまざまなチャレンジを応援し、また看護職のキャリア開発と勤務継続を目的にさまざまな支援活動を行っています。かけがえのない人生のキャリアにおいて、最初の職場選びは重要—女子医大なら必ず“何か”をつかむことができるはずです。



その人にとって、その人らしい選択を。 イキイキと看護職の道を進むために。

女子医大では、2009年にキャリア開発支援部門が発足され、キャリアカウンセリングとメンタルヘルスカウンセリングを行っています。具体的な相談はもちろん、漠然とした悩みもOK。カウンセリングは守秘義務を守り、マンツーマンで行います。カウンセリングの目的は自己理解と自己決定の手助け。答えは誰かに与えられるのではなく、自分で見つけるもの。それが自信になり、次の一歩を踏み出す力になります。

〔詳しくは下記で〕
看護職キャリア開発支援部門 ▶ <http://www.twmu.ac.jp/Ns-career/>

カウンセリングでは、相手が何を言いたいのかを聴くのに注力しています。話を聴いているうちに「自分が何を大事にしている、何を目標としているのか、どうしたいのか」輪郭が見えてきます。その人にとってその人らしいものを選択すること、そして、その人が看護職としてイキイキ働けることを目標にしています。

山内 典子 (附属八千代医療センター)
看護部
精神看護専門看護師 / 精神看護エキスパートナース

キャリアカウンセリング

自分らしさが出せ、安心して話せる こころのよりどころです。

メールナース会は2009年に発足された会です。男性看護師ならではの不安や悩み、葛藤を分かち合い、相談できる場です。専門看護師や認定看護師、エキスパートナース、管理職スタッフなどベテランも多く、今後のキャリアを考えたり、勉強会を開催して看護のスキル・倫理観を養える会となっています。

私が1年目の頃、部署に男性の先輩看護師がいて、その存在だけで安心していました。勤務が異なる日には孤独を感じることもあり、メールナース会でその思いを話しました。すると同じ悩みを乗り越えた方の話を参考に自分の悩みも解決でき、以来、自分らしさを出して働いています。同じ境遇の人達と話ができる環境は大切だと思います。現在も新人支援の一環で、先輩と新人が少人数で話しをする場を設けていて、私も経験した通り他では話せないことも自然と話せる空気がメールナース会にはあります。今後繋がりを強め、メールナース会発信で病院に貢献していきたいです。

松原 京介 (東京女子医科大学病院)
CCU 勤務

男性も働きやすい場所

メールナースの会 male nurse



TOPICS

チャレンジを応援 する独自の取り組み 〈活動・カウンセリング・研修〉

進学などで経験を積みたい

休職制度

- 進学休職：看護知識・技術のために在籍したまま進学ができる制度 (対象) 2年以上在籍の成績良好者
- 看護職国外研修休職：キャリアアップのために語学、看護研修、ワーキングホリデイに限り留学できる制度 (対象) 3年以上在籍の成績良好者
- 認定看護師資格の取得支援：国内出張扱いで休職を認め、基本給を支給 ※人数制限あり

これからは資格を活かして、看護の幅を広げたい!

看護師として患者さんにもっとできることがあったのではないかと考えていた時、ロールモデルとなる認定看護師や師長に相談し、休職制度を利用して進学を決意。休職したため勉強に集中でき有難かったです。学校生活はとにかく楽しく、同志と専門的な話ができたかけがえのない時間でした。資格取得後は自分の引き出しが増え、患者さんの思いに気づいて、どうしたら伝えられるか考えられるようになりました。今後は、資格を強みに部署を超え、多職種で同じ目標に向かって支援をできるようにしたいです。更にそれを地域に広げて、地域全体で患者さんの支援をすることが目標です。



鵜名山 峻一
(附属八千代医療センター)
リハビリテーション室勤務
慢性心不全看護認定看護師

ライフステージに合わせて働きたい

キャリアアップ

- 看護職研修支援：受講した研修・学会費用を支援する制度 ※上限5万円、翌年度支給
- 資格取得手当：診療看護師・エキスパートナース：3万円
専門看護師・認定看護師・特定行為研修修了看護師・アドバンス助産師：1万円

ライフステージに合わせて選べ、視野が広がる環境です。

論理的に根拠と自信をもって小児看護を実践している実感が欲しいと思い始めた頃、師長に強く背中を押され、休職制度を利用して大学院に進学。小児看護専門看護師の資格を取得しました。その後1児の母となり時短勤務で働いています。CNSとして育児しながら働くことはとても大変ですが、すごく楽しいです! ライフステージに合わせて相談でき、制度を使って働き続けられる環境があり、色々乗り越えるたびに広がっていく視野に気づきます。

高木 志帆 (東京女子医科大学病院)
小児病棟勤務 小児看護専門看護師



仕事を続けるためのサポート 〈進学・留学・育児・介護〉

育児と仕事を両立したい

短時間就労支援制度

- 短時間勤務制度：進学・育児・介護を目的に1週間の実務労働時間を20時間または24時間に短縮できる制度 (対象) 1年以上の在籍者

チームワークある風土の中で、育児と仕事を両立しています!

1児の子育てをしながら短時間勤務で働いています。復職時に短時間勤務をしていた看護師に相談し、週4日24時間の短時間勤務を使うことを決めました。仕事と家族、それぞれの時間を大切にできていますし、それにより両方をイキイキ行っているように感じます。現在は病棟に5人短時間勤務制度を使っている人がいます。ロールモデルが多いこと、制度を使える風土・チームワークがあることは支えです。落ち着いたら夜勤もはじめて病棟に恩返ししたいです。

鈴木 未歩 (附属足立医療センター)
脳神経外科病棟勤務



ワーキングママ&パパを応援する本

年間約1万件の手術数。専門性の高い医療を提供しており、貴重な経験と学びにつながります。

東京女子医科大学病院

1908(明治41)年、東京女子医学校附属病院として開設。全国から重症・難治疾患の患者さんを受け入れ、専門性の高い先端医療を提供しています。診療科や職種を超えてつながる大規模なチーム医療をはじめ、ここでしかできない経験と学びを求め、医師や医療専門職スタッフが全国から集まっています。

TOKYO WOMEN'S
MEDICAL UNIVERSITY



大学病院の特徴

高度先端医療

臓器移植

臨床・研究・教育



ICUで呼吸器を装着した患者への立位訓練



「da Vinci」を使用した手術



消化器内視鏡科の治療



ICUでのカンファレンス

最先端医療

命を救い、次の治療へと確実につなぐ先鋭のチームと最新設備の総合力。

当院は5つの臓器移植施設として認定されています。特に心臓移植、小児部門の移植手術は、限られた施設でしか実施できない難易度の高い手術であり、高度なチーム医療が必要です。つまり、当院にはそれだけ高水準のチーム医療があると認められているということ。看護部でも、ドナーの情報がいつ来ても対応できるよう、常に体制を整えています。現在、腎臓移植においては日本で最多の症例実績があるほか、数多くの症例実績を持ち、移植臓器の生着率については国内最多となっています。

さらに、2020年には集中治療科に11台のECMOが導入され、重症患者さんの治療だけでなく、移植手術にも機能を発揮しています。ECMO離脱後も引き続き当院での治療ができる体制が整っており、「命を未来につなぐ」医療が提供できる点も、大きな特徴であり強みでもあります。また、これ以外にも、最先端医療を提供するための、さまざまな医療機器が充実。日本に唯一の「スマート治療室」のハイパーモデルを有するほか、手術支援ロボットも3台が稼働しています。



日本で唯一のスマート手術室「HyperSCOT」

入退院支援

全国から集まる患者さんをスムーズに受け入れ、また地域の生活に戻れるよう密な連携を行う。

医療連携・入退院支援部の多職種スタッフが、患者さんやご家族、地域の医療機関に対し、診療・通院・リハビリ・介護に伴うさまざまな相談に応じています。入院治療を必要とする患者さんに対しては、不安なく治療を受け退院ができるよう、外来に入退院支援センターも開設。入退院支援看護師、手術室看護師、薬剤師、栄養士、事務スタッフが常駐しており、入院予約や面談、手術のオリエンテーションなどを担当。入院前に看護師がスクリーニングを行うことで、退院準備に早期から取り組むことができます。

退院に際しては、病棟に1名ずつ配属されている入退院支援リンクナースと、医療連携・入退院支援部の退院調整看護師が連携して、地域包括支援センターやケアマネジャー、訪問診療医、訪問看護ステーションなどと調整を行っています。また、退院後も当院の外来に通院される方が多いため、外来の各診療科とも情報共有を密にするなど、院内連携にも力を発揮。都内全域はもちろん、全国各地からの患者さんの退院後の療養生活を支えるため、きめ細やかな連携を心がけています。



認定看護師による心不全患者への指導



カンファレンス

HOSPITAL TOPIC

看護の専門性を活かした看護専門外来・助産外来。患者さんの生活に近い目線で在宅生活を支える。

多くの専門看護師や認定看護師、院内認定看護師が活躍する当院では、その専門性を活かして患者さんのさまざまな相談支援を行う、看護外来にも力を入れています。現在、皮膚・排泄ケア外来やがん看護外来をはじめとする11の看護専門外来と、助産外来が設置されています。診療時間よりもゆっくりと患者さんと向き合い、治療を続けながらの生活や、自宅でのセルフケアの方法、心理面などについての相談支援を行えるため、看護師にとっても、より専門性を発揮できる場になっています。また、院内の関連診療科や、地域の医療職からの相談、教育・指導にも対応し、医療連携にも寄与しています。



患者が安全に安心して治療を受けられるよう、ハイリスク症例検討会を行います。



「ハイリスク症例」の手術や治療に対して、患者に関わる多職種と一緒に検討を行う会議です。重症例の治療等、当該診療科や関連診療科等が必要と判断した場合や、術前の受診により麻酔科医師が必要と判断した場合に開催します。医療安全推進部が中心となり、病院長、麻酔科をはじめ医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士、理学療法士等、多角的な視点で意見を出し合い、患者が安全・安心して手術を受けられることや治療を選択できるよう検討しています。

看護師に聞く Q&A

Q. なぜ診療看護師を目指したのですか。

A. 手術看護認定看護師の資格を取得して10年経った頃、プラスアルファの知識や技術を修得することで、手術を受ける患者さんの安全をより向上できないかと考えたのがきっかけです。自分の中でもう一步ステップアップしたいという思いもありました。

Q. 現在の活動や役割について教えてください。

A. 手術室に所属しながら心臓血管外科に出向し、手術を受ける方を入院から退院直前まで継続して担当しています。手術室内だけではなく関わりができるので、患者さんも安心ですし、私も勉強になっています。また、診療看護師として医師に代ってできる業務を任せられたり、医師との調整を依頼されたりと、スムーズな診療の一助になっていると感じます。

Q. 女子医科大学病院の魅力は、どんなところですか？

A. 重症度が高く他の病院では治療が難しい方や、さまざまな背景の患者さんも多く入院されています。厳しい状況でも専門医と看護のスペシャリスト、多職種のチームで力をあわせて乗り越えることができるのは、当院ならではの強みだと思います。専門看護師、認定看護師、院内のエキスパートナースと働くことで、自分の学びにもなる点も大きな魅力です。

Q. 今後の目標について教えてください。

A. 診療看護師になってまだ2年目。周りを見渡しても、大先輩に比べるとまだまだ開かれ始めたところです。後進が歩ける道を切り開いていくことが、自分の使命でもあり皆のための目標だと思っています。



診療看護師 荒木田 真子

地域包括ケアの一翼を担う高度急性期医療の新拠点で 多様なニーズに応える「看護のジェネラリスト」に。



附属足立 医療センター

東京都の北東部に位置する足立医療センターは、地域に密着した高度急性期医療の提供に尽力しています。特に期待される三次救急、周産期医療、がん診療、災害拠点中核病院という役割を担っていくには幅広い知識と技術、そして看護の心を大切にされた看護のジェネラリストは欠かせません。新病院でも東京下町の皆さまに「足立医療センターがあるから安心」と言っていただける看護実践を重ねていきます。

附属足立医療センターの特徴

24時間三次救急対応

地域周産期母子医療センター

地域連携



ハイブリッドERでの治療



ICUでの患者さんへの声掛け



水陸両用車による訓練



車内でオペができるNBC災害対応救急車

MFICUも併設。出生前から成長・発達まで 切れ目のない高度な医療を提供。



新設されたMFICUと、これまででも新生児医療に貢献してきたNICUは、主に足立区と荒川区の患者さんを受け入れる地域周産期母子医療センターとしての役割を果たしています。MFICUではハイリスクの母体と胎児の集中治療を行うほか、NICUにおいては早産児や低出生体重児だけでなく、さまざまな疾患を持つ新生児の集中治療、高度な新生児救命医療を行っています。特に呼吸器疾患に関しては、全国各地から患者さんが治療を受けに来られるほどの実績があります。新生児が表情などで伝えてくれるさまざまなサインを読み取りながら、個性のある看護を心がけると同時に、日々の看護を通して新生児の成長・発達と親子関係の形成を大切にしています。



助産師による新生児の沐浴



小児在宅酸素療法の退院支援

年間1,500件を受け入れる救命救急センター。

救命救急センターは、ハイブリッドERと20床のICUなどの設備を擁するほか、新病院ではさらにヘリポートも設置され、より救急患者さんの受け入れ体制が充実しました。消防庁からのホットラインによる三次救急に対応し、年間1,500人以上の患者さんを24時間体制で受け入れています。ここでの看護はチームナーシングと継続受け持ち方式を採用。一人ひとりの看護師が担当患者さんを受け

持ちながら、看護方針や問題点についてはチームで話し合い共有していきます。災害医療に興味のあるスタッフも多く、自主的に勉強会を開いて学びあったり、東京DMAT(災害医療派遣チーム)や日本DMATにも参加するなど、自己研鑽していく風土です。診療看護師(NP)、救急看護の認定看護師も数多く活動しています。



DMATの訓練

HOSPITAL
TOPIC

新病院移転でさらに機能が充実。 退院支援・地域連携にも力を入れています。

当院の退院支援は、外来初診時に看護師による問診対応を行い、支援の必要性を確認することから始めています。入院前の面談では、入院生活だけでなく退院後の生活を見据えて情報を提供し、退院への気持ちの準備を進めています。これらの関りは、患者の暮らしを維持することにつながり、患者の意思決定を尊重することになります。看護は、このような丁寧な退院支援を行い地域医療福祉職との連携に力を発揮しています。当院では、急性期医療から人々の暮らしといった幅広い視野で看護を学ぶことができます。



訪問看護との連携カンファレンス

地域住民が安心して暮らせるように、 信頼関係を広げ、深めていきます。

地域の医療福祉職と協働して地域住民が健やかな暮らしを考えるヘルスケアセミナーを定期的に開催。子どもを対象に足立区学習センターと共同開催した「子どもお薬教室」では、薬についての基礎知識講座を親子で一緒に学び、足立医療センターで薬剤部の見学から実際に薬を作ることを体験します。小児科外来では「おはなしの会」を江北図書館と共同開催し、司書が読み聞かせを行っています。こうした地域との繋がりを通じて、足立医療センターは今後も地域医療支援病院として住民が安心して暮らせるように、より一層の信頼関係を構築していきます。



ヘルスケアセミナー



子どもお薬教室

看護師に聞く Q&A

Q. 新しく移転した「足立医療センター」の救命救急センターの魅力を教えてください。

A. ハイブリッドERをはじめ、さまざまな設備が導入されたことで、より早く検査や治療が進められるようになりました。スタッフも皆やる気に満ちていて向上心があります。職種を超えたコミュニケーションもとてもスムーズ。目の前の患者さんのために、役割分担も明確に、お互いに助け合えるチーム力が魅力です。

Q. 救急看護のやりがいと、大切にしていることは？

A. 重症の状態でお会いした方が、呼吸器から離脱できたり、カテーテルが必要なくなったりと、回復される姿に接すると、「このために仕事をしているんだ」といつも感じます。患者さんのためにもっとできることはないかを考え、根拠のある看護を提供できるように、知識と技術を磨き続けることを大切にしています。

Q. 救急看護は1年目の看護師でもできますか？

A. 1年目から救命救急センターで働いている先輩も多いので、新人看護師の気持ちに共感したうえで、一緒に成長していく関係性が築けていると思います。もちろん1年目から重症の患者さんを担当するわけではなく、少しずつステップアップしていきます。その中で、一人ひとりの患者さんに比較的にじっくりと関わることができるため、患者さんからより多くのことを学べる環境でもあります。

Q. 救急看護を目指す後輩に一言。

A. 救命救急というと、特別なイメージを持たれる方も多いと思いますが、危機に瀕している人をケアする、看護の本質は変わりません。足立医療センターは、区内でもトップクラスの搬送件数。まず命を救って次に繋げる経験を、一緒に重ねていきませんか？



救命救急センター主任/救急看護認定看護師 赤池 麻奈美

周産期母子・小児医療を充実させた地域医療支援病院。 高度先端医療と心温まるケアの調和をはかります。



附属八千代 医療センター

総合周産期母子医療センター、千葉県でも唯一の小児救命救急センターなど地域と時代のニーズに応える中核病院です。急性期を担う高機能病院として、救命救急センター、SCU、がんセンターなど、高齢者医療まで幅広く学べます。地域完結型医療を目指し、地域と細やかな連携をしています。全職種でチーム医療に取り組み、明るく活気ある組織と働きやすく学びやすい環境も特長です。

附属八千代医療センターの特徴

総合周産期母子医療センター

24時間の三次救急対応

急性期に特化した地域完結型医療



助産師による母親と新生児への声掛け



NICU内での新生児のエコー検査の介助



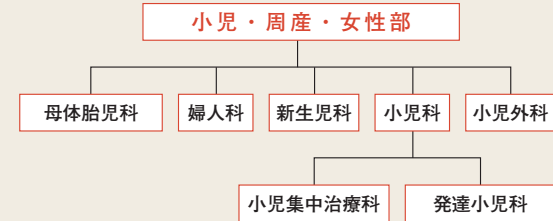
ICU内での記録業務



ドクターヘリ専用のヘリポート

千葉県に3つしかない 総合周産期母子医療センターのひとつを担います。

母性胎児科がMFICU(母体胎児集中治療室)6床、後方産科病床40床、新生児科がNICU(新生児集中治療室)21床、GCU(後方新生児病床)16床を持ち、八千代医療センターの総病床数500床のうち83床を占めています。分娩はLDR4室(ハイリスクLDR1室)を備え、産科麻酔医も常駐。2006年12月の開院以来、年間の救急母体搬送受け入れ数は約200件。正常妊娠・分娩からハイリスク、基礎から専門まで、周産期を幅広く経験し学べる環境です。



- 切迫早産、合併症妊娠等のハイリスク出産。
- 母体と胎児から新生児までの連続した医療管理MFICU6床、NICU21床、GCU16床。
- LDR室設置・アメニティー向上。
- 母子センター外来を病棟内に併設。



PICU内でレントゲン撮影前の準備



入退院支援のためのカンファレンス



認定看護師と理学療法士による心臓リハビリ

地域連携

市民の方々が住み慣れた場所で安心して暮らしていくことができるように、地域との繋がりを大事にしています。

八千代市における医療や介護を医師会、訪問看護ステーション、ケアマネージャー、理学療法士、栄養士、薬剤師会、歯科医師会、特定非営利法人「やちあ」等と連携しています。その一環として地域の医療従事者に向けた勉強会や研修会も開催しており、八千代医療センターも参加しています。市民の方々が病や障害をも

ちながらも住み慣れた場所で自分らしく、安心して生活していくことができるように、地域の各専門職が協働することで質の高い、温かいケアを提供し貢献することを目指しています。そのために、今後も地域医療支援病院として日頃から横の繋がりを大事にしています。

HOSPITAL TOPIC

患者さんが安心して入院治療を受けられるよう 入院前面談から退院後の調整を一貫して支援。

地域の中核病院として、医師会や地域包括支援センター、訪問看護ステーションなどと連携をとり、病院と地域が一体となって患者さんの退院後の療養生活を支えることに力を入れています。入退院支援部門では、専任の入退院支援看護師、医療ソーシャルワーカー、医療事務スタッフなどが協力して、入退院支援・地域連携を行います。入院前の患者さんの不安軽減やアセスメント、情報提供、病棟との連携、退院に向けての環境課題の解消、関係機関との調整に、一貫して同じ看護師が関わることが当院の大きな特徴です。また、退院後も医療ケアを自宅で行いながら療養生活を送る方も多いため、入退院支援看護師・病棟看護師による入院中から退院後を見据えた自宅訪問と退院後訪問を実施しています。最近では認定看護師による同行訪問を開始しました。



やちよ倫理を考える会(やちりん会)を開催。 地域と共に患者・利用者さんの最善を考慮。

センターの看護師と八千代市訪問看護会が「医療関係者が、現場における日ごろの困りごとや悩み(もやもや)について、対話を通して思考を整理し、知識を用いて解決することにより互いにサポートしあう」という目標を掲げ、「やちよ倫理を考える会」(通称やちりん会)を立ち上げました。会では、病気や障害をもつ人々の福利のために医療関係者も安心して治療、ケアに臨めるよう関係者が集い「臨床倫理カンファレンス」「もやもやリフレクションカフェ」「臨床倫理研修会」を定期的に開催。大学病院のスタッフ、地域のスタッフ双方の視点や考えを交えることで、患者さん・利用者さんの最善をより広く、深く考えることができます。これからは「顔が見える地域の中核病院」として、地域と一緒に考えていきます。



看護師に聞く Q&A

Q. 八千代医療センターの小児ユニットの特徴は？

A. 近隣に小児の入院できる施設が少ないため、東葛南部だけではなく、さらに広域から、入院の必要のある小児を受け入れる小児医療の重要な拠点です。当院の全500床のうち84床が小児の病床で、PICUもあります。2021年4月には、千葉県初の小児救命救急センターの指定も受けました。県内唯一の小児救命救急センターとして、三次救急までを受け入れています。

Q. 小児看護で大切にしていることは？

A. 一番は、子どもたちが入院前の生活に戻れるようにお手伝いをしていくこと。さらに、親御さんをはじめ多くの大人が関わりますから、家族ケアも含めて小児看護だと思っています。大変なことも多い分野ではありますが、自分も成長できる場です。

Q. 小児の地域連携はどのように行われますか？

A. 小児専門の専任入退院支援看護師が4名います。退院前に地域の訪問看護ステーションや子ども関連の施設の方との調整を行ったり、直接ご自宅を訪問し、医療的ケアをしながらの療養環境が整えられるかどうか確認・調整をしたりしています。退院時には一緒に家まで行き、退院後も1ヶ月以内に訪問を行っています。

Q. 小児ユニット全体の雰囲気について教えてください。

A. 規模が大きく医師数も多く、将来のある子どものために新しい知識や技術を身につけようという向上心が非常に高い環境です。常にさまざまな勉強会などが開催されています。職種を超えて意見を出し合うこともでき、人間関係もとてもいいので、私自身、小児看護に関わる上でこれ以上の環境があるだろうと思うくらいです。

PICU・小児外来看護師長 濱崎 志乃

地方出身の先輩看護師がたくさんいます。 女子医大では、暮らしとの両立も大切に考えています。

女子医大では、日本全国からさまざまな地域で、いろいろな学校で学んできた先輩たちが頑張っています。「初めての職場」での出会い・学びは、長く看護の仕事をしていくうえで大変重要であり、今後のあなたを造っていくものです。ひとりひとりの看護師が、自分らしい看護を実現できるよう、環境・生活面でも女子医大は全力で応援します。

看護師寮

生活の充実が得られる生活環境。

常に患者さんに安全で安心な看護を提供するためには、看護師が日々平常心を保ち冷静な判断を行うことが重要です。そうした平常心を支えるために病院では働きやすい職場環境と生活環境、また気持ちをリフレッシュできる環境を整えています。



東京女子医科大学病院

建物：RC6階建て 部屋数：32室
設備：オートロック・エアコン・ユニットバス・トイレ
キッチン・洗濯機・冷蔵庫置場、クローゼット、シューズボックス、バルコニー
寮費：42,000～51,000円/月
通勤：徒歩5～15分圏内
入寮条件：新卒者 入寮期間：最長5年



附属足立医療センター

建物：SRC8階建て 部屋数：40室(7・8階)
設備：カメラ付きインターホン、エアコン、証明、IHコンロ、クローゼット、シューズボックス、バス・トイレ別、洗面台、温水機能付便座、洗濯機置場、宅配ボックス、バルコニー
寮費：40,000円/月
通勤：病院隣接
入寮期間：新卒者 入寮期間：最長5年



附属八千代医療センター

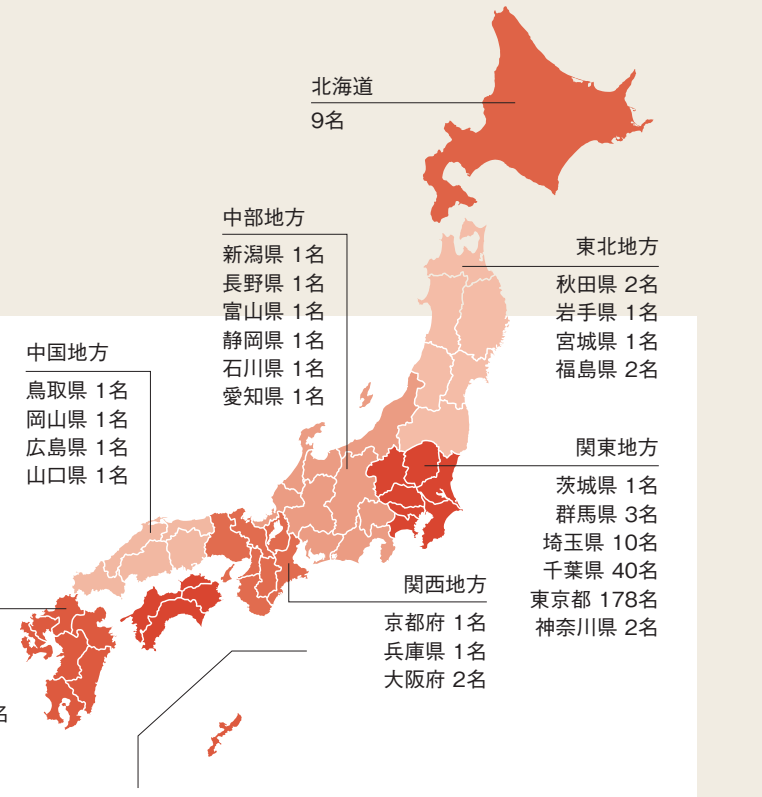
建物：RC3階建て 部屋数：24室
設備：オートロック、エアコン、証明、クローゼット、シューズボックス、バス・トイレ別、洗面台、温水機能付便座、洗濯機置場、バルコニー
寮費：18,000～28,000円/月
通勤：徒歩5～15分圏内
入寮期間：新卒者 入寮期間：最長5年



出身校一覧

※2022～2023年4月入職者卒業校

- 愛国高等学校
- 愛知県立大学
- 藍野大学短期大学部
- 美会柏看護専門学校
- 青森県立黒石高等学校
- 青森県立保健大学
- 秋田県立衛生看護学院
- 秋田市医師会立秋田看護学校
- 秋田大学
- あびこ助産師専門学校
- 飯田女子短期大学
- 石川県立総合看護専門学校
- 市原看護専門学校
- 茨城県きぬ看護専門学校
- 今治看護専門学校
- 岩手保健医療大学
- 岩見沢市立高等看護学院
- 宇部フロンティア大学
- 江戸川看護専門学校
- 大阪医専
- 岡崎市立看護専門学校
- 小樽看護専門学校
- 鹿児島医療技術専門学校
- 川崎医療短期大学
- 関西看護医療大学
- 九州大学
- 京都光華女子大学
- 共立女子大学
- 桐生大学
- 駒医協札幌看護専門学校
- 群馬医療福祉大学
- 群馬大学
- 慶應義塾大学
- 高知学園短期大学
- 神戸女子大学
- 晃陽看護栄養専門学校
- 国際医療福祉大学大学院
- 琴似看護専門学校
- 駒沢女子大学
- 埼玉医科大学
- 昭和看護専門学校
- 佐賀市医師会立看護専門学校
- 佐久大学
- 幸手看護専門学校
- 三草会札幌看護専門学校
- 山陽学園大学
- 四条看護専門学校
- 静岡県立大学
- 至誠会看護専門学校
- 島原市医師会看護学校
- 秀明大学
- 淑徳大学
- 首都医校
- 純真学園大学
- 松蔭大学
- 上智大学
- 昭和学園高等学校
- 昭和大学医学部附属看護専門学校
- 福山女子大学
- スズキ病院附属助産学校
- 聖徳大学
- 西武文理大学
- 聖隷クリストファー大学
- 専門学校日本医科大学
- 大東文化大学
- 地域医療振興協会 さいたま看護専門学校
- 千葉科学大学
- 千葉県立保健医療大学
- 千葉県立幕張総合高等学校
- 千葉中央看護専門学校
- つくば国際大学
- 帝京科学大学
- 帝京高等看護学院
- 帝京大学
- 帝京大学(福岡)
- 帝京平成大学
- 東京有明医療大学
- 東京医科大学
- 東京医療学院大学
- 東京医療保健大学
- 東京医療保健大学大学院
- 東京家政大学
- 東京警察病院看護専門学校
- 東京工科大学
- 東京純心大学
- 東京情報大学
- 東京墨田看護専門学校
- 東京都立板橋看護専門学校
- 東京都立大学
- 東京都立広尾看護専門学校
- 東京福祉大学
- 東都大学
- 東邦大学
- 東北福祉大学
- 中林病院助産師学院
- 新潟青陵大学
- 西新井看護専門学校
- 日本医科大学看護専門学校
- 日本医療大学
- 日本医療科学大学
- 日本赤十字九州国際看護大学
- 日本赤十字社助産師学校
- 人間総合科学大学
- 広島国際大学
- 広島文化学園大学
- 福岡市医師会看護専門学校
- 福岡県私設病院協会看護学校
- 福岡国際医療福祉大学
- 福岡大学
- 福島県立医科大学
- 福島県立総合衛生学院
- 藤元メディカルシステム 付属医療専門学校
- 船橋市立看護専門学校
- 文京学院大学
- 平成医療短期大学
- 北部地区医師会北部看護学校 助産師学校
- 母子保健研修センター
- 北海道科学大学
- 北海道美唄聖華高等学校
- 北海道文教大学
- 宮城県白石高等学校
- 宮崎大学大学院
- 武蔵野大学
- 洛和会京都厚生学校
- 了徳寺大学
- 和洋女子大学



東京女子医科大学

Tokyo
Women's
Medical
University